

第19回

住宅課題賞

建築系大学住宅課題優秀作品展

RESIDENTIAL
STUDIO PROJECT
AWARD 2019



一般社団法人

東京建築士会

TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は19回目を迎えましたが、年々参加大学も増え、本年は39大学52学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クワッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2019年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、平成30年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版(縦841mm ×横594mm)縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。

大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日時】

2019年11月23日(土) 13:30～17:00

【会場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

審査員：加茂 紀和子(みかんぐみ／名古屋工業大学教授)

田井 幹夫(静岡理工科大学理工学部建築学科准教授／アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所)

寶神 尚史(日吉坂事務所)

吉野 弘(吉野弘建築設計事務所)

司会進行：城戸崎 和佐(城戸崎和佐建築設計事務所／京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科教授)



01 茨城大学学生寮+国際交流施設建替計画 -Ibaraki Communications-

地方都市に立つ大学学生寮+国際交流施設。滞在時間の短い個室を環境の良い南側にコンパクトにまとめ、緑地に面する北側に5学科それぞれのシェアコアが散りばめられた共用部を配置する。同じ学科の学生の個人ブースが吹き抜けを中心に集合するシェアコアと、それらをつなぐ共用生活ゾーンとが連なっており、留学生を含む学生、研究者、教員が互いの専門性を高めながら共に生活していく。



小林 令奈 (こばやし れいな) 茨城大学

工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 内藤 将俊

指導教員名: 稲用 隆一

教員推薦
コメント

対比的に配された個室群と共用部とをブースという学生がカスタマイズ可能な小さな空間単位で有機的に結びつけられ、工学を共通言語とする多種多様な住人が思い思いに住みこなす自由さが提示されていることが評価された。〔稲用 隆一〕



02 まちに集まって住もう

敷地のある釜川沿いは創造的な活動が近年活発です。そんな敷地の地下に、集合住居と様々な分野の創造の空間をつくりました。地下にあることで周辺への音や光の影響は少なくなるので、思う存分活動に集中できます。地上には建築をほとんど置かないで、公園のような緑あふれる空間を作り、地域に開放します。地方都市に文化の豊かさと、心のゆとりがある新たな住まい方がうまれます。



寺澤 基輝 (てらさわ もとき) 宇都宮大学

地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 大嶽 陽徳

指導教員名: 金野 千恵

教員推薦
コメント

地方都市の中心市街地で集合住宅を設計する際に、建物を地中に埋め、GLレベルを緑豊かな都市公園として開放したことが、集合住宅での暮らしを豊かにするとともに、地域の都市生活へも貢献している点で評価されました。〔大嶽 陽徳〕



03 緑地の再生と〇〇併用住宅の設計

目黒川沿いを散策している人たちが気軽に立ち寄れるよう、建物の真ん中にパブリックな通路を設け、それを挟むように店舗と住宅を配置した。その結果、動線の交わりを避けてプライバシーを守りつつ、離れ過ぎない関係が出来ている。店舗2階のテラスと住宅のリビングから桜並木が楽しめ、通路を抜けると小さな公園があり、日常の喧騒から少し離れてリラックスできる空間が広がっている。



北田 佳歩 (きた だかほ) 大妻女子大学

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 柳 秀夫、八木 敦司

指導教員名: 柳 秀夫、八木 敦司

教員推薦
コメント

計画敷地は、川沿いの活気ある街並みと北側に広がる閑静な住宅地との結節点に位置する。その象徴である桜並木と、北側の小公園の佇まいを貫通通路で結ぶことで、店舗と住宅の適切な配置関係と街路状のドラマチックな空間をつくり出した秀作である。〔柳 秀夫〕



04 50人が暮らし、50人が泊まれる、この先の暮らしの場

豊かであるとは選択できることと日々の変化を感じられることで多様な感情や感動を持てることであると考えます。しかし、現状の都市における生活は変化のない廊下に自室内での活動を強要させられるものとなっている。そこで、通りたいところを選択できたり、シェアしたいときは人と感動を共有したり、シェアしたくないときは自室内で生活を送れるなど暮らしを建築が制限しない空間を提案する。



三浦 悠介 (みうら ゆうすけ) 神奈川大学

工学部 建築学科 建築デザインコース / 4年

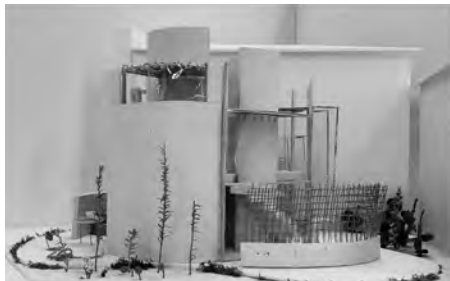
課題出題時学年: 3年

出題教員名: 曾我部 昌史

指導教員名: 曾我部 昌史

教員推薦
コメント

個性的な居住環境の創出を求めた。この提案には、選択性の高い空間構成や、生活者の気持ちの変化を引き出す仕組みがある。周辺環境への丁寧な対応、構造形式と関係づけた空間デザインなどとあわせて評価された。〔曾我部 昌史〕



05 あり続ける住宅

ひとつの建築があり続けられ、風景や環境、ひとのよりどころもあり続ける。しかし、人は作った建築を無情に壊し、風景や環境、ひとのよりどころをも壊している。あり続ける建築とはひとに愛される建築であり、ひとを愛する建築である。ひとにあり続ける心や感情の解放を受け止めるひとを愛する建築は、ひとに、あり続けて欲しいという想いを抱かせる、ひとに愛され続ける建築になれる。



長橋 佳穂 (ながはしかほ) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:村山 徹

指導教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹

教員推薦
コメント

建築の持続性と自律性を問う課題に対して「人々の感情や心を肯定する建築」のありかたを追求することで応えた作品。まちかどに佇む小さな植物の二重の花弁のような、半ば閉じ、半ば開いた住宅が提案されています。〔粕谷淳司〕



06 住まいをまちに開く

趣味を大切にする夫婦2人の住宅。地下の工房は2人が時間を共有し没頭できる場所であり、ワークショップを開催することを想定し、趣味を通して人との交流を創る場所である。パブリックとプライベートを上下で緩やかに分かち、ボックス状の部屋をずらすように配置することで、多方向に向けたテラスを確保する。視線が抜けることで互いの気配を感じあい、繋がりを楽しむ住宅となっている。



田口 桜 (たぐちさくら) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:高橋 大輔

指導教員名:高橋 大輔

教員推薦
コメント

大田区多摩川の昔ながらの下町の風情を残した環境の中で、様々なレベルに設定される工房+作業場・コミュニティスペース&キッチン・住宅の機能がヴォイドをつくりだすことで多様なアクティビティを創出しています。〔高橋 大輔〕



07 近代名作を再構成する

マイレア邸の分析を通して住宅における空間の要素を区分し、ヒエラルキーを設けることを主なコンセプトとして抽出した。設計にあたっては、住居空間を「サブド・スペース」と「サーバント・スペース」、それら二つの空間に挟まれた「中間領域」の3つの空間を定義した。空間の違いごとに異なる構造とし、自然光の取り入れ方、建築材料にも違いをつけることで空間のヒエラルキーを構成した。



相馬 英恵 (そうま はなえ) 慶應義塾大学

環境情報学部 環境情報学科／3年

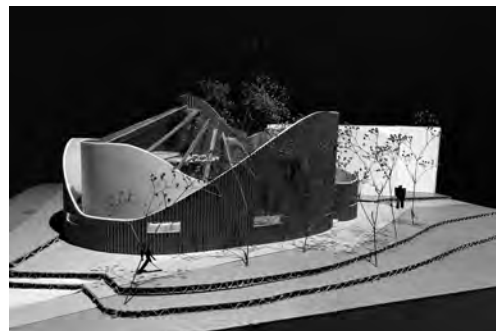
課題出題時学年:2年

出題教員名:坂 茂

指導教員名:坂 茂、原野 泰典、城所 竜太

教員推薦
コメント

マイレア邸の設計プロセスを分析しつつ、与えられた敷地条件が持つプライバシーの確保や、隣地との接し方など現代的な課題に取り組むことで、個性的な案へと発展できたところを評価しました。〔原野 泰典〕



08 外のある家

「外」を住宅外部の視覚情報と捉え、住宅の外部(外壁)に見られる色、形、素材、景色を住宅の内部でも同じような光景で見せることで、実際には生活空間にいるがあたかも外部にいるように錯覚してしまう。



朝田 岳久 (あさだ たけひさ) 工学院大学

建築学部 建築学科／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:富永 祥子 指導教員名:木下 庸子、藤木 隆明、篠沢 健太、市川 竜吾、岩堀 未来、高呂 卓志、高濱 史子、原田 智章、安田 博道、後藤 武

教員推薦
コメント

平面は曲線を自由に折り曲げることで生まれる大小の室内と室外空間で構成されている。蛇行する壁形状は視線を考慮に入れた結果でもあるが、その頂部にかけられた屋根の勾配と高さは内部の機能を考慮しつつ決定された。〔木下 庸子〕



09 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

「街を壊すような建築はだめだ」

擁壁によって上下に分断された街をつなぐよう集合住宅を設計した。本設計では集合住宅において通常、下層部に配置される公共空間、商業施設を建築上部に計画した。そのことにより公共空間と住居部分の関係性を再構築し、大きなボリュームの建築が街にとってよりポジティブな存在になれることを目指した。



除村 高弘 (よけむら たかひろ) 工学院大学

建築学部 建築デザイン学科 / 4年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 木下 庸子 指導教員名: 木下 庸子、西森 陸雄、藤木 隆明、星 卓志、Kearney Michael、金箱 温春、押尾 章治、沢瀬 学

教員推薦
コメント

段状の構成により生み出される上下の空間構成において、タイトルである「余家(ヨカ)」という住宅以外の空間を作り、そこにカフェや教室などのコミュニティ空間を作るといったもの。集まって住まう新たな風景を生み出している。(西森陸雄)



10 森の中の小さなキャンパス・ロッジ

人々は普段、快適な環境の中で生活している。そんな環境からかけ離れた自然あふれる環境で「人間」としての自分ではなく「ヒト」としての新たな自分を見つける。このキャンパス・ロッジでは普段考えることのない生きることについて考え、自分の人生を考える。自然からの「生命のエネルギー=Vitality」は人々の心に生命を宿す。そんな宿を提案する。



秋田 美空 (あきた みく) 工学院大学

建築学部 まちづくり学科 / 2年

課題出題時学年: 1年

出題教員名: 藤木 隆明 指導教員名: 藤木 隆明、塩見 一郎、今永 和利、鈴木 崇志、保 清人、都築 弘光、原田 智章、平井 充、藤田 雄介

教員推薦
コメント

「建築を設計するとはどういうことなのか。」「森の中に建築をつくるとき建築はどうあるべきなのか。」秋田美空さんのキャンパス・ロッジは、これらの命題をラディカルに(根本的に)考え抜き、到達した作品である。(藤木 隆明)



11 湖畔に建つシェア別荘

自然物と人工物の対比。自然と一体化させるだけの建物ではなく、コンクリートの建物を崖に埋め込む事でそれが人工物である事を印象づけ、自然との対比を図った。それによりインパクトを与え、都会では中々味わう事のできない現実離れ感を演出し、思いもシェアしやすいようにした。また、アクティビティであるクライミングをできるようにし、別荘ならではの特別な体験を可能にした。



林 大雅 (はやし たいが) 国士舘大学

理工学部 理工学科 建築学系 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 南 泰裕、伊藤 潤一、須川 哲也、鈴木 丈晴、高階 澄人、吉本 大史 指導教員名: 吉本 大史

教員推薦
コメント

湖畔に建つシェア別荘、という課題に対し、あえて切り立った崖値を敷地に選んだ案です。湖畔の境界にダイナミックに埋め込まれ、地形に対峙するように、大胆な片持ちでせり出したアイデアの力強さと巧みさが、評価されました。(南 泰裕)



12 ダガヤサンドウに住むとしたら

ダガヤサンドウは住宅街のイメージがある場所だが、近年は個性的な専門店が出来るにしている変化のある街だと感じた。では、現代の暮らしの変化とは何か。生活と仕事の境目は曖昧になり、住人同士の距離感は遠くなっていると考えた。ダガヤサンドウでの暮らしの中に開放的なワークスペースを設け、そこから住人同士の生活が垣間見えることで暮らしや街の変化を感じる集合住宅を計画した。



大村 香葉子 (おおむら かなこ) 駒沢女子大学

人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 太田 清一、茂木 弥生子 指導教員名: 太田 清一、茂木 弥生子

教員推薦
コメント

提案された住居ユニットの特徴は3階建の2階が外部空間である事。且つ各ユニットを階段状の敷地内路地に配置し、視線の変化を図った。将来にわたっての2階外部空間の様々な使われ方がこの集住の風景を魅力的にすることが評価された。(太田 清一)



13 シェアのハウス

近年問題となっている中高年層の引きこもり者は、今後一層の社会的・経済的孤立が予想され、その解決には、集団生活を通じ社会への帰属意識の向上が必要である。そこで、中高年層引きこもり者の段階的な社会復帰を目的とし、職業訓練施設を備えたシェアハウスを提案する。ここでは機能的・空間的不安定のなかで初動を与え、自ら選択していくことで社会と接続されてゆく住環境を計画した。



塚越 果央 (つかこしかお) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 APコース / 2年

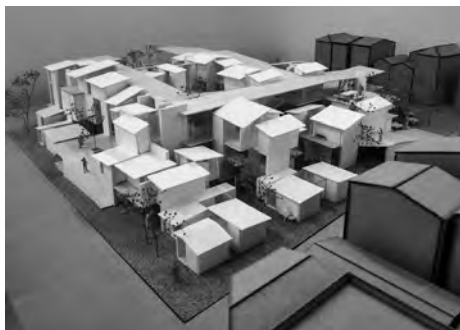
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 山代 悟

指導教員名: 谷口 大造

教員推薦
コメント

この作品は中高年の引きこもりとシェアハウスという、一見相反するテーマですまのあり方を模索している。個と社会との接点の空間図式を繰り返スタディしていた姿勢は大変好ましく、今後の活躍を期待したい。(谷口 大造)



14 地域を“あげる”集合住宅 ～コンテキストを質へ転換する～

敷地の佃には道や川の交点に人同士が関わる大きな場がある。また、機能を足したり引いたりすることで関わりの場となる空間も多く存在している。この集合住宅には町にある大小の関わりの場が含まれている。この小さな関わりに触発され、やがては佃の町全体に小さな関わりの場を生む。人の多様性を利用し関わりを生むこの建築は、最短距離を求める現代において集団で暮らす意味を見出す。



小竹 隼人 (こたけ はやと) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 SAコース / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 原田 真宏

指導教員名: 羽淵 雅己

教員推薦
コメント

東京では数少ない路地にあふれた植木鉢や腰掛けのある生活風景は今も学生を刺激する。それを生のままでなく再解釈して空間化しようとする試みが評価できる。回廊が密集市街の風道になる等の環境配慮も期待したい。(羽淵 雅己)



15 辰巳の30戸集合住宅 断面で設計する

まず、敷地が辰巳の中心に位置することから住民以外にとってもシンボリックな住宅にすることで辰巳全体の「集」う場所になり、また集合住宅において発生するオープンスペースを様々な箇所に「散」らすことで公共性を弱め、住民が活用しやすくした。さらに住民の多様なライフスタイルに合わせ1住戸の形をワンパターン化しないことで自分だけの住宅を「選」ぶことができるようにした。



中西 真菜 (なかにし まな) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 UAコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 赤堀 忍

指導教員名: 田名後 康明

教員推薦
コメント

この計画は1ユニットを垂直方向に拡張し、繋げることで内部外部に吹き抜けを計画している。外部の吹き抜けは共有のテラスとなって街に豊かな表情を作り出している。もう少し考えるべきは導線でした。(赤堀 忍)



16 名作から考える

壁は空間をへだてるためのツールと考えられがちだが、参照した「共生住居」から壁を操作し立てることで空間をへだてつつ、つなげることができるという仮説を抽出した。また敷地は魅力ある緑道に面する角地だが、完全に開くことはできない。そこで本提案では空間や、周辺環境とを壁によって「へだててつなげる」住宅を提案する。



富士 輝 (ふじ あきら) 首都大学東京

都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース / 3年

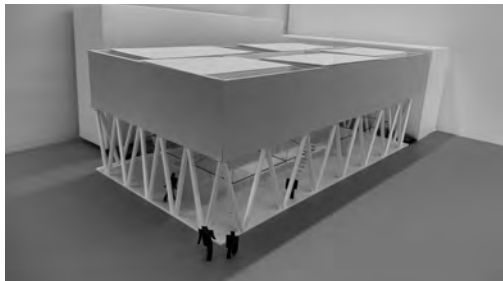
課題出題時学年: 3年

出題教員名: 吉田 昌平、富永 大毅、宮内 義孝、猪熊 純

指導教員名: 富永 大毅

教員推薦
コメント

参照した、内藤廣 住居No.1 共生住居に対して、直接的な類似性に逃げず、全く新しい設計に再構成している点が素晴らしい。特徴である「壁」を、空間を隔てるものでありながら繋ぐものでもある、と仮説をたて、課題で与えられた敷地状況に合うよう、多くの検討を行った成果が出ている。(猪熊 純)



17 「商店長屋」-商店街に暮らす-

三軒茶屋にある商店街に建つ商店長屋。立地である商店街は、商店街ならではの専門性と人と人との繋がりが少ない印象であった。そのため現代を生きる人たちに現代的な商店長屋の提案である。長屋と商店街の良さである人との繋がりを1階の商店部分で築き、2階の住居部分では現代的なプライバシーが守られる空間を。商店街の新しいカタチを未来に繋げられるような長屋を提案する。

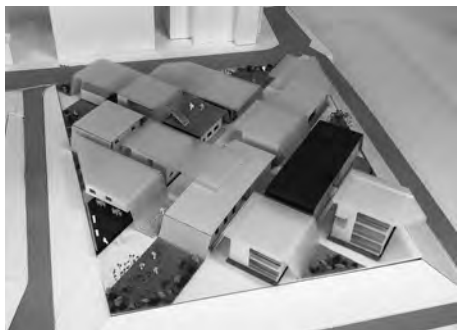


鈴木 彩花 (すずき あやか) 昭和女子大学

生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:高橋 堅、御手洗 龍、森田 祥子、杉浦 久子
指導教員名:高橋 堅

教員推薦 コメント

長屋と商店を上下階に分節することで、活気ある商店群と落ち着いた住空間の双方を、一気に実現する提案。V字柱で長屋を宙に浮かし、派生したピロティ空間には、商店を自由に配置できるようになっている。〔高橋 堅〕



18 集合住宅計画・景観デザイン

様々な世帯が暮らす集合住宅を提案する。敷地中央の通りには図書館や学童・カフェなどの施設を配置し、住民だけでなく街の人を呼び込むことで、地域で子ども達を見守りコミュニティが自然と生まれる場を目指した。施設や住戸を包み広げる帯は屋根や壁となり、プライバシーを保ちつつもつながりを生み人々の暮らしに関わっていく。時や場合によって多様な表情を見せる集合住宅である。



野崎 杏奈 (のざき あんな) 女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:飯村 和道
指導教員名:飯村 和道、下田 倫子

教員推薦 コメント

野崎さんは、非常にまじめで、探究心をもって新しいアイデアを提案しようと努力を続け課題を完成させています。その結果、どの課題でも優秀な成績を収めております。本作品も独創的で提案力があり推薦致します。〔飯村 和道〕



19 《風景の中の住空間》～一家がくつろげる週末住宅～

「鍾水の土地を読む」「方角を感じることができる」「光の器としての建築」。これらをテーマに、週末の時間を家族や友人と過ごすための住宅を設計する課題。鍾水の豊かな自然を存分に享受し、日々の都心での生活から離れた特別な体験ができる住宅を提案した。木々の葉が生い茂る高さまで床高を上げ、緑の中で生活をする。陽の光は木々を通して柔らかく取り込まれ、こぼれていく。



鈴木 あかり (すずき あかり) 多摩美術大学

美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース／2年
課題出題時学年:1年
出題教員名:田淵 諭 指導教員名:田淵 諭、松澤 穰、米谷 ひろし、湯澤 幸子、田嶋 豊、高橋 靖一郎

教員推薦 コメント

「風景の中の住空間」と題したこの課題で、作者は多摩の雑木林の中で、木々の葉の高さまで機能分けした住空間を持ち上げ展開している。ガラス張りの各室の連続性と風と光を感じる爽やかな空間構成を評価した。〔田淵 諭〕



20 MAD City House

松戸神社の参道沿いに大屋根の住宅を提案する。鳥居の存在を引き立てる緩やかな大屋根は、通行人からの視線を程よく調整する公と私の結界であり、東に開かれた屋根裏の住空間は、神社の豊かな緑と水を生活に引き寄せる。木漏れ日が差し込む心地の良い軒下空間は、私が人々と気軽に声を掛け合える居場所となり、この家をきっかけに、道と日常が近づき、参道は活きた空間となっていく。



渡邊 大祐 (わたなべ だいすけ) 千葉大学

工学部 総合工学科 都市環境システムコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙
指導教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

教員推薦 コメント

出展作品は、敷地周辺の文脈を丹念に解読し、個人の生活と前面道路へ提供された道ゆく人々の憩いの場がバランスよく設計され、かつ、全体が魅力的なランドマークとしてまとめられている点が評価されました。〔森永 良丙〕



21 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計

多様で豊かな暮らしは異なる要素の組み合わせや、その隙間に溢れる生活によって彩られる。煩雑と曖昧さを帯びた commons は如何にして創出できるだろうか？本提案では、一つのロジックで全体を計画することを否定し、無作為にサンプリングした敷地周辺の住宅に見られる生活拡張の可能性を持った要素を合成することで、予定調和的ではない複雑で多様な集合住宅を目指した。



竹村 寿樹 (たけむら としき) 千葉工業大学

創造工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 石原 健也 指導教員名: 佐々木 珠穂、河内 一泰、中川 純、村田 龍馬、多田 修二、田島 則之、石原 健也

教員推薦
コメント

多様な暮らしが集合した風景を求めた課題に対し、想像的に多様性を捏造するのではなく周囲の暮らしに垣間見える風景をサンプリングして抽象化と再構成を試みた点が評価された。(石原 健也)



22 都心の住宅地に建つコンドミニウム

定型的な集合住宅であふれている都市に「柔軟なかたち」を用いた集合住宅を提案した。この集合住宅は2棟の居住棟と1棟の階段棟により構成されている。各居住部の平面図の外形を曲線とし、3つの空間に柔らかく分ける。各階でその外形は柔軟に変化し、最上階で2棟は1つになる。居住者は空間と空間の関係性や3つの棟の距離感によって生まれるおもしろさの中で新しい暮らしを始める。



森西 和佳子 (もりにし わかこ) 筑波大学

芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 花里 俊廣

指導教員名: 花里 俊廣、加藤 研

教員推薦
コメント

学生の変態のプロセスを追うと面白い。森西さんのように、突然にサナギから蝶が生まれる。初めは、自らの能力を確かめるかのような動きであまり見栄えのしないエスキスを持ってきていたが、最後になって美しく成長した。(花里 俊廣)



23 生活の距離を考える

この住人は非血縁関係の男女二人であるため、生活の中でのお互いの「距離感」と、鎌倉の街とつながりがありながらも、住人のプライバシーをきちんと確保できる街との「距離感」の二つの距離感を考えて提案した。開口部を失くし部屋全体を繋げ、窮屈にならないようにしているが、壁柱や床をうまくずらすことで住人や街との距離感をほどよく保っている。



栄 杏奈 (さかえ あんな) 東海大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 山口 紗由 指導教員名: 渡邊 研司、山崎 俊裕、古見 演良、河内 一泰、納谷 新、白子 秀隆、山下 貴成、山口 紗由、佐屋 香織

教員推薦
コメント

一階ピロティには鎌倉の街とつながるパブリックな場所があり、その上空に漂う雲の中に棲むような住宅である。ランダムな壁柱と床によって閉じすぎる事なく街と緩やかに関係する距離感が良い。(河内 一泰)



24 多摩NT A・B団地一部再生計画

東京郊外団地の再生計画。住棟と住戸、それぞれのアプローチ空間を操作することで全体の住環境を向上させる。周辺道路と住棟の高低差により生じていた団地内外の隔絶を、住棟間を道路レベルまで掘り込むことで解消する。そこを団地の新たなアプローチとし、多様なアクティビティを誘発する広場を作る。さらに階段室を改良し玄関位置を変える等、住戸へのアプローチを改善する。



西本 清里 (にしもと せり) 東京大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 大月 敏雄 指導教員名: 大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨンゴン、金野 千恵、武井 誠、原田 麻魚、松島 潤平

教員推薦
コメント

住棟間を道路レベルまで掘り下げて「入り江」状の結節空間を創出し、車と人をシームレスにつなぐ発想が極めて画期的。さらに、「入り江」の入口の橋上には集会所が設置され、コミュニティの象徴性を獲得している。(大月 敏雄)



25 シェアハウス／〇〇が集まって棲む家

南青山は文化施設やブティック、ブランド店などの有名建築や高級住宅街として日本でも有名なエリアである。建築家の卵である女子学生が感性を磨くには充分であろう。また、周囲をガラスで囲み、パブリックスペースをスケルトンにすることで、他者との暮らし方や外界からの視線を意識し、整った生活空間を演出する。



山本 麻 (やまもと あさ) 東京家政学院大学

現代生活学部 生活デザイン学科／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:瀬川 康秀

指導教員名:原口 秀昭

教員推薦
コメント

メッシュ、ガラス、壁による入れ子状の囲みにより、透明性が各階の機能に応じて制御されている。1階は作業や作品を見せる透明な空間、2階、3階の各室は壁で囲ってガラス側に通路を設けた非常に巧みな構成である。〔原口 秀昭〕



26 集合住宅

この集合住宅では、ヴォリュームの中を階段室が貫くことで各住戸を充填している。住戸がなくヴォリュームが挟まれたところにはワークスペース、共有リビング、庭などのパブリックスペースが配置されており、それらは全て階段室に面している。この階段室は路地のような存在として集合住宅内部のプライバシー性を担保しつつも街の連続として各住戸、共有スペースを繋いでいく。



高橋 一仁 (たかはし かずひと) 東京藝術大学

美術学部 建築科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:飯田 善彦

指導教員名:ヨコミジマコト

教員推薦
コメント

高橋くんは、コンテクストの掴みにくい周辺環境から、まちの印象に少なからぬ影響を及ぼしている壁面素材に着目し、モルタルのグレーの壁とレンガタイルの茶色い壁による巧みな修辭的空間構成を行なっています。〔ヨコミジマコト〕



27 集合住宅の設計

共に食卓を囲むことで生まれる繋がり、隣人や地域住民という関係を超え、家族のような温かな帰る場所を生み出すと考え、失われつつある住人同士や地域住民のコミュニティを構築する集合住宅を提案する。一本の木に人々が集い生活する、ツリーハウスのように設計したことで同じ木で暮らす住人たちが、食卓を囲み、家族のようなあたたかな関係を築くことのできる空間を生み出した。



赤羽 紗也加 (あかはね さやか) 東京電機大学

未来科学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山田 あすか

指導教員名:中山 薫

教員推薦
コメント

「食卓に集まる」というテーマのもとこの集合住宅を「ひとつの大きな家」として捉え、1階エントランスホールに大胆にもキッチンとダイニングを設け住民の流れを立体的につなぎランドスケープに溶け込ませた秀作である。〔中山 薫〕



28 本に住まう

本がある場所に存在し、読む、使うという行為が起こることによってその空間は特有の空気を持ち、居場所を生み出す。それにより、人とのコミュニティも生まれる。そんな誰もが必ず自分の居場所を見つけることの出来る集合住宅を提案する。



藤原 好海 (ふじわら このみ) 東京都市大学

工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:手塚 貴晴

指導教員名:富川 浩史

教員推薦
コメント

様々な意味で極めて優れた傑出した作品である。一見単純なダイアグラムのようなものが、そこに至るまで無数の模型とスケッチを積み重ねた結果である。低学年の学生としては驚くほどコンセプトからのブレがなかった。〔手塚 貴晴〕



29 根津に住む

根津は道端で交流をする住民が頻繁に見られる地域だが、住宅が密集し道が細いへび道では人が行き交うだけで地域の繋がりが希薄になっている。そこで内外に三角縁がある家をおくことで道の縁となり、人が集まる場を作り、道と家、人と人の繋がりを生み出すような空間を提案する。三角縁から入ることのできる一階は昼は地域に開放し、夜は住人が使うというセミコモンスペースになっている。



橋口 真緒 (はしぐち まお) 東京理科大学

工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 池田 雪絵、石橋 敦之、伊藤 孝仁、船木 幸子、細矢 仁、峯田 建、熊谷 亮平 指導教員名: 峯田 建

教員推薦 コメント

不整形の小さな敷地に於いて、敷地境界に呼应した中間領域を立体的に創り出し、街に対して個人空間と共用空間を巧みに調和させている。内外の三角縁側がへび道固有の街並みの連続感を引き立てている点も評価したい。〔峯田 建〕



30 谷中の事務所つき住宅

一般的にマイナスイメージを持たれている「行き止まり」。谷中にはそんな行き止まりが多く存在しているが、その評価は正しいのだろうか。実は行き止まりにも魅力があるのではないか。実際にそこに暮らすことでそんな魅力を感じることができるはずだ。また谷中特有の地形に魅力を見出すことが建築家である自分と地域のつながりになっていく。



松浦 開 (まつうら かい) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 垣野 義典

指導教員名: 片桐 悠自

教員推薦 コメント

Y字路を見立てた分岐点をもつ「廊下」の住宅である。袋小路となる部分は従来の居室として示される。廊下自体も居住行為を包含し、ギャラリーや仕事場、子どもの遊び場となり、住居内廊下の可能性を提示している。〔片桐 悠自〕



31 不純な住宅

複雑な家族構成や生活形態が多様化している現代には、人と人の関わり方が豊かな住宅が必要である。この住宅は1階のパブリック空間から3階のプライベート空間へと徐々に性格を変え、壁柱のずれが部屋と部屋を緩やかにつなぐことによって、人と人の関わりが距離を保ちながら豊かになる。まちや他人、家族に開きつつも閉じられた住宅である。



林 奈々緒 (はやし ななお) 東洋大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 篠崎 正彦

指導教員名: 塚田 修大

教員推薦 コメント

核家族で内部完結していた住宅は、「不純な」家族を想定することで社会という外部へ接続する。そんな彼らの住宅として、平断面と架構を統合し、個人から社会へ段階的に関係を調整できる空間を提案した秀作である。〔塚田 修大〕



32 独立住宅(3世代1世帯)の設計

性別、年齢、精神状態など様々な違いを持つ5人が暮らす1つの家。外形の派手さよりも、内側に散りばめられた空間が、住み手に疑問を与えて、その住み手が応える形で住宅を変えていく。そんな一軒家を目指しました。また高い天井に対して比較的小さい幅を必要所に設けることで、非日常的な空間を作り、「平野邸」という特別感が住み手に生まれるように意識しました。



日向野 秋穂 (ひがの あきは) 東洋大学

ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 内田 祥士、柏樹 良、仲 綾子 指導教員名: 内田 祥士、名取 発、柏樹 良、仲 綾子、小林 進一、井上 彰良、窪川 勝哉、佐々木 龍郎、船木 幸子

教員推薦 コメント

本作品は、2階の南北軸に沿って大胆に庭を作り出し、庭のまわりに配置した個室をさらに東側と西側のインナーテラスに接続させている。内外を繋げるにとどまらず、まちとの接続を試みている点が卓越している。〔仲 綾子〕



33 これからの住まい

「間」という言葉には、物と物の隙間という意味以外にも、のどか、ゆとり、ひそかに、などの意味がある。時間に追われながら働く現代人にとって、働く場所のそばには、「間」を楽しめる空間が必要である。木と木の間、公園と家の間、段差と段差の間など、「間」の空間に着目し、仕事場(アトリエ)兼住宅を設計した。



菊谷 あこ (きくや あこ) 日本大学

芸術学部 デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:熊谷 廣己

指導教員名:熊谷 廣己

教員推薦
コメント

課題に応答する豊かな構想を備えた作品である。やわらかいエスキースとスタディ模型による空間の身体性の捉え方や敷地を越えた大きな環境を創造的に住まいに組み込んでいく思考力が魅力的である。(熊谷 廣己)



34 集住体のデザイン 街に開く集住体 — 神楽坂の集合住宅

画家、音楽家、建築家、作品を持つ子供まで様々なジャンルのアーティストが集まる、アーティストのための集合住宅である。神楽坂に訪れた人へ作品を展示、発信し街へ開いていく。また、アーティストたちにとって集合住宅全体が大きなキャンパスとなり作業から展示、生活までがアートの一部となる。そして、シンボルとなる棟は作品の保存棟であり、アーティストの軌跡を残していく。



下田 ことみ (しもだ ことみ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:北野 幸樹

指導教員名:山田 祥裕

教員推薦
コメント

子供から老人まで、すべての人が何らかの表現者(アーティスト)であり、それぞれの作品を発信する場(キャンパス)を集住体と一体化し、アートによる街の持続可能性を示した意欲的な作品であると考え推薦しました。(山田 祥裕)



35 8mCUBE 8m立方の一つの秩序を持った住宅空間を設計する

三つの面を直角に規則的に組み合わせることで、様々な大きさの空間や機能、人のいる場所を作り出すことができることを発見した。身体スケールや人の行為を想像して、三つの面の基本ピースを立体に組み合わせると魅力的な空間になることも発見した。そのおかげで建築空間を設計するということがわかって、設計することが楽しく好きなことになった。



内野 佳音 (うちのかのん) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:篠崎 健一、種田 元晴、泉 幸甫

指導教員名:篠崎 健一、種田 元晴

教員推薦
コメント

綿が水を吸うように建築空間を構成することを学んでいった。モダン・デザインの源泉や基本的な形の均衡を学びながら、飽くことのない試行錯誤の末に自分のかたちを見つけていった過程が素晴らしい。(篠崎 健一)



36 SKELETON & INFILL

東京都品川区、設計地の隣にある林試の森公園。かつて植物の試験場として多種多様な木が植えられたが、木々は共存し成長を続け、今では地域の憩いの場となった。この森のように暮らし方の異なる人々が住まう集合住宅のあり方を考える。自由な暮らし方を実現し、コモンに開いた空間を設けることで繋がりを生む。助け合いや楽しみの共有から住民たちの関係が構成されていく。



新井 菜緒 (あらい なお) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:鍋島 千恵、山中 祐一郎

指導教員名:鍋島 千恵、山中 祐一郎

教員推薦
コメント

人が集って住むときの住宅計画を構造と機能の補完関係から学ぶ「スケルトンインフィル」の課題である。新井は、シンプルなストラクチャーの反復の中にランダムな床版を設定し、可変性のある豊かな住空間を構想した。(山中 祐一郎)



37 代官山コンプレックス

今日において家族とは何であるか。いるのは個人であり、その群れが社会というバンドで括られているだけだ。ならば戸境はもっと薄く、むしろ無くても成り立つのではないか。nLDKを開くために閤を取り入れ、家に閉じ込められた機能をコミュニティに預けた、個室単位の集合住宅のあり方を提案する。



森野 和泉 (もりの いずみ) 日本大学

理工学部 建築学科 / 3年

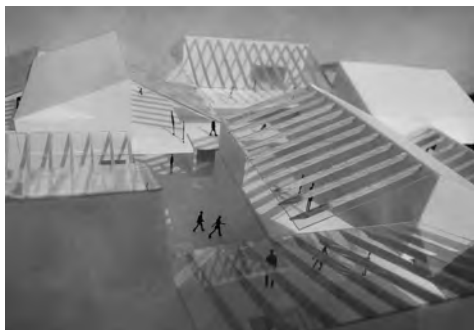
課題出題時学年: 3年

出題教員名: 佐藤 光彦

指導教員名: 佐藤 光彦

教員推薦
コメント

必修設計科目の最後の課題で、集合住宅が中心となる商業施設との複合建築である。森野さんの作品は、商業活動から住まい方までを横断する新たな建築の型を見いだそうとする意欲的で完成度の高い提案となっている。(佐藤 光彦)



38 親水公園と美術館に隣接する都市型集合住宅

「家」のイメージを表象するかたちである切妻屋根の10棟ほどが軒を連ねるその下に、20戸のフラットタイプとメゾネットタイプの住戸を高密度に組み合わせた低層集合住宅である。外部空間のスキマが各住戸のプライバシーを確保しながらも、相互の干渉を生む。路地空間の先にある広場、庭が、光と風を採り入れ豊かな生活を生む。



神林 慶彦 (かんばやし よしひこ) 日本大学

理工学部 海洋建築工学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 水野 吉樹

指導教員名: 水野 吉樹

教員推薦
コメント

走り回る子供の足音、それを見守る世代を超えて語らう大人たちの声が聞こえてくるような、このまに相應しい魅力的で美しい都市型住居の連続体となっている。(水野 吉樹)



39 賄い付き下宿・再考

2階の居住空間の全ての個室にロフト階を設け、共用スペース側の壁をルーバーに、その他をガラスにすることで、個室が、共用スペースや外などさまざまな空間へと繋がっていく。また、2階の入口側をガラスにし、向き合わせることによって3つの共用スペースに繋がりをを持たせる。これらの空間が、学生16人の個人空間を守りつつ、自然な会話や交流を生むことを期待している。



野口 颯希 (のぐち そうら) 日本工業大学

建築学部 建築学科 建築コース / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 小川 次郎、平林 政道、小山 大吾

指導教員名: 小川 次郎、平林 政道、小山 大吾

教員推薦
コメント

この課題では、下宿での生活を通じて地域で暮らすことの可能性を求めました。野口さんの作品は、3つの共用スペースを介して住人同士の、また住人と大家さん及び地域の人々の緩やかなつながりが期待できる点が評価されました。(小川 次郎)



40 地域と関わるシェアハウス

この敷地は交通量の多い3つの道路が交わる点にある。人通りが多いのに対して挨拶や会話がないこの空間に寂しさを感じ、共有空間を「路地」としてまちに開いた。個人の空間は最小限のスペースにわけ、路地に対して壁の裏側に立体的に設置し、その凹凸によって建物の外観がつくられている。各スペースへの階段を回遊的に配置することで、建物全体がまちとつながる空間にした。



高宮 弥 (たかみや あまね) 日本工業大学

建築学部 建築学科 生活環境デザインコース / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 足立 真、白子 秀隆

指導教員名: 足立 真、白子 秀隆

教員推薦
コメント

細分化された個人スペースと開かれた共有空間との対比が深く、建物の表裏が反転したような構成と、その空間を立体的に楽しむ仕掛けが丁寧な考えられていて、交差点に建つシェアハウスの提案として魅力的です。(足立 真)



41 街とくらす集合住宅

代官山の街は人の生活と仕事が併存し他人の生活を受容するおおらかさを持つ。そんな街の空気から住戸が街に水滴のようにぶら下がるシェアハウスを設計した。3階を住戸・2階を制作見学所・1階を店舗とし従業員が住み込むこの建築は、私的空間から共的空間へと床レベルが変化し公の空間へと徐々に開いていく。住と働が共存するこの街と暮らす集合住宅として、街に滴る暮らしを提案する。



小野 杏花 (おの きょうか) 日本女子大学

家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:宮 晶子、針谷 将史、寶神 尚史、東 利恵、稲垣 淳哉、石川 孝重、片山 伸
指導教員名:宮 晶子

教員推薦
コメント

個と街の共存が予定調和的にならず、主体的な人々の関係から生じる場とするための補助線が場所・プログラム・構造に相互に働き秀逸。街と個のラインが断面的に絡み、個を支える柱は街の階に空間の厚みを生んでいる。〔宮 晶子〕



42 住まいの設計「都市部に建つ戸建住宅」

計画地は都市の一面に位置する住宅密集地である。ビルに囲まれ、人に揉まれながら帰る家はどんな場がよいだろう。壁と天井に囲まれ、閉鎖された場であって、そこもまた都市の窮屈さとなんら変わらない。寝食と共に、外の空気を吸い込み、緑の移ろいを楽しみ、空の広さを感じようではないか。それは、田舎の大自然の中で生活する者のみに与えられた特権ではない。自然と触れ合う理想的な暮らしを、都市の中に夢見た。

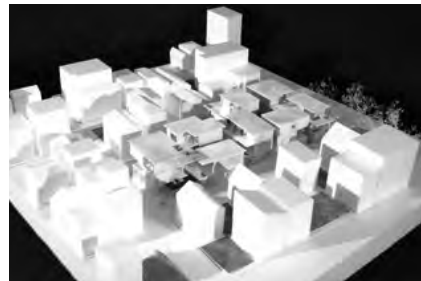


瀨瀬 麻人 (こうけつ あさと) 文化学園大学

造形学部 建築・インテリア学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:谷口 久美子、高橋 正樹、久木 章江、渡邊 裕子、岩塚 一恵、種田 元晴
指導教員名:種田 元晴

教員推薦
コメント

建築をただの箱とみなして閉ざすことなく、かといって短絡的に外部へひらくこともせずに、内部と外部との豊かな関係を悩ましく追究する厳しさと、建築のかけがえのない価値をも信じる心意気とを、高く評価したい。〔種田 元晴〕



43 発見し続けられる住宅

ポケットパークという名の都市のボイドが無数に広がる百人町。これらは誰のものでもない空間である。集合住宅という占有の考えが強い住体型の中で「わたしとあなたの空間」をつくり、「メンバーシップ」を招き入れることができるよう、間仕切りでゆるく繋ぐ。住人が空間を編集することができるような集合住宅を考える。



勝野 楓未 (かつの ふみ) 法政大学

デザイン工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:下吹越 武人、渡辺 真理、稲垣 淳哉、津野 恵美子
指導教員名:津野 恵美子

教員推薦
コメント

低層密集地における集合と空地をテーマとした課題に対して、勝野案は多様な生活に対応するシェア空間を内外に展開した。ごくシンプルな法則と操作で成立したシステムが持つ、固有解に留まらない可能性が評価された。〔津野 恵美子〕



44 低・中層集合住宅の設計

集合住宅・地域内のコミュニケーションの接点となる“共有部”を充実させた設計を行った。敷地は商店街と住宅街の境界に位置する。この特徴を活かした新しい住まい方のプログラム、空間を提案する。集合住宅内には、敷地沿いを流れる広瀬川や周辺の店舗、部屋の間取りを考慮した“共有部”となる4つの通りを設ける。そこでは地域住民同士の交流が生まれ、活気が広がっていく。



石丸 実来 (いしまる みき) 前橋工科大学

工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:石川 恒夫、石黒 由紀、内海 彩
指導教員名:石川 恒夫、石黒 由紀、内海 彩

教員推薦
コメント

選択肢の3つの敷地のうちの上毛電鉄と広瀬川に平行な道路を挟んだ2つを選択し、線状の「通り」とその間の空間を、3種類の利用者のタイプと周辺の特徴を活かしたデザインにすることで、従来の商店街でも住宅地でもない空間ができていく点で秀逸である。〔石黒 由紀〕



45 住宅／非住宅

区画整理が行われ、暮らしの完結した閉じた箱が集積する住宅街の一角に、先に街に開いた場を作り、そこを住宅とする課題。箱を開いて展開し、組み合わせ、開いた場をつくる。できた空間から、3人の芸術家が場を発見し活動を当てはめ、開いた場を発信の場としながら暮らす。芸術が発信され、地域住民が集まり、コミュニケーションが生まれ連鎖し、街全体が明るく賑やかになってゆく。



大富 有里子 (おおとみ ゆりこ) 前橋工科大学

工学部 総合デザイン工学科／3年

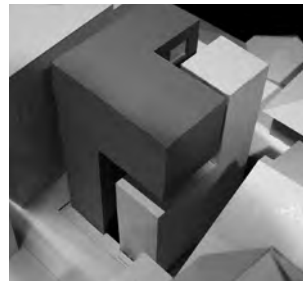
課題出題時学年:2年

出題教員名:駒田 剛司

指導教員名:駒田 剛司、江本 開夫

教員推薦 コメント

様々なジャンルの表現者が集る小さな共同体のための住宅である。内側にコンススペースを抱えるシェアハウスの形式とは異なり、曖昧に区切られた複数の場が、相互に繋がり合いながら街へ流れ出す様に魅力を感じた。〔駒田 剛司〕



47 敷地選択型 住宅プロジェクト —住宅+αの新しい可能性を提案する—

敷地は阿佐ヶ谷の商業地域にあり、周囲には住宅や店舗が高密度で立ち並んでいる。至る区割に建つ建物たちの中には耐火基準を満たしていないものも多く、またこの辺り一帯は再開発の計画もあり、今後周辺環境が大きく変わっていくことが想定される。そのような状況の中でこの敷地を取り巻く様々な文脈の、そのいずれもから一定の距離を取った時に立ち現れる建築の自律性を目指した。



大嶋 肇平 (おおしま しょうへい) 武蔵野美術大学

造形学部 建築学科／4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:布施 茂、青木 弘司、三幣 順一

指導教員名:布施 茂、青木 弘司、三幣 順一

教員推薦 コメント

阿佐ヶ谷の住宅密集地に設定した最大限のボリュームに立体的な間隙(外部)を介して空間を構成した建築。多様なスケールと距離感がつくり出す連続と分断による空間分節の新しい可能性を提案した秀逸な作品である。〔布施 茂〕



46 働きながら住む10世帯の空間

計画地、吉祥寺の魅力の一つである路地の新しい在り方と、吉祥寺という場所で集い、働き、住まうことを考える。路地とは建物同士の隙間により作られてしまう空間だ。だがその隙間を、隙間としてでなく曖昧な境界と位置づけることにより、新たな住民間の交流の場や1つの店舗では生み出せない商業空間、職場と住空間の間の名前のつかない部屋など、利用者のための新たな居場所が生まれる。



長田 莉子 (ながたり こ) 武蔵野大学

工学部 建築デザイン学科／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡、八島 正年、岡田 雅人

指導教員名:伊藤 泰彦

教員推薦 コメント

各世帯が営む、まるでインテリアのような(半)屋外の小さな店の集積。その店同士、曖昧な境界と、空間の断面をそのままファサードと化す無防備な見せ方に、吉祥寺という町に住むことの縮図を感じた。〔伊藤 泰彦〕



48 今日の役割を持つ共用住宅(シェアハウス)

シングルマザーと単身者を対象とした共同住宅である。多目的に使える部屋をいくつかつくり、子供部屋、趣味部屋、事務所など幅広い用途で自由に使うことができる計画とした。部屋は四角いキューブ状とし、部屋と部屋をずらして共用空間を作った。そこから採光や外気を取り入れることができる。居住者間でコミュニケーションが取りやすくなるよう、中央のコンスペースから各住戸にアクセスすることができる様に計画した。



小出 香純 (こいで かすみ) 明海大学

不動産学部 不動産学科 デザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

教員推薦 コメント

単身者とシングルマザー達が協力し合い住む共同住宅を提案しています。四角い空間を様々な形につなげることで、空間のいろいろなバリエーションを作りだしています。周辺環境に対して開放的な外構を計画し、地域とのつながりを意識した計画となっています。〔塚原 光顕〕



49 これからの集住のかたち:多様な世帯が暮らす集合住宅

住人それぞれの多様な生活が今日的な距離感でつながるよう、住戸を折れ曲がったチューブ状とし、それらをずらしながら積層させることで、でこぼこした立体的なすきまをつくり出している。住人の多様な生活は住戸内部にとどまらず、外部のすきまへと拡張され、緩やかに他の住民や街とつながる。様々な性格を持ったすきまは住人の生活を豊かにしながら、周囲へと展開する。



間宮 里咲 (まみや りさ) 明治大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:山本 俊哉

指導教員名:吉原 美比古

教員推薦
コメント

テトリスと反対にすきまに価値を見る試み。カフェ、ディスプレイ、SOHO、オープンスペース、キッチン、リビングとすきまは自在に変化し、従来のプライベート/仕事、専有/共有といった区分にとらわれないしなやかなアプローチが評価された。〔吉原 美比古〕



50 更新する共同住宅

埼玉県行田市という歴史ある城下町ならではの路地の多い土地柄に合わせて、路地をコンセプトに住居スペースを展開。路地から広がる個人スペースの曖昧な境界がコミュニケーションを作る。主な構造体を木造フレームとすることで、ものづくり大学生が自身の技術を活かして増築や改修ができるようになり、長くにわたって自由自在に更新し続けることのできる共同住宅となる。



山本 佑香 (やまもと ゆうか) ものづくり大学

技能芸芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年

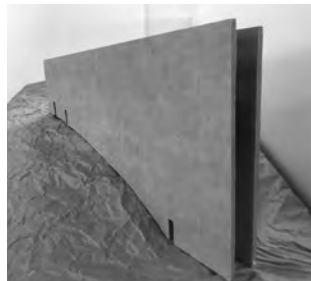
課題出題時学年:3年

出題教員名:岡田 公彦

指導教員名:岡田 公彦、長谷川 欣則、戸田 都生男

教員推薦
コメント

実習により実際に建築を造りあげていく、ものづくり大学生が住む集合住宅。その住人に関する条件と敷地環境に関する条件を解きつつ、新たな、しかし懐かしさのある風景と住まい方を生み出す仕組みの提案である。〔岡田 公彦〕



51 自然のなかの居住単位

急な斜面に建つ住宅。この住宅の住空間は斜面を巻くように遠回りをしながら少しずつ登っていく山道に、ぼつりぼつりと点在する。空間と空間を結ぶ山道は自然の豊かさ、強さ、時には厳しさを感じさせる。日々の暮らしの中で何度もその道を往来する住人はそれを体得しながら、山道が通る範囲すべてを「家」と捉え広く住もう。これは人の生活が周囲と対話するための住宅である。



寺西 遥夏 (てらにし はるか) 横浜国立大学

都市科学部 建築学科 / 3年

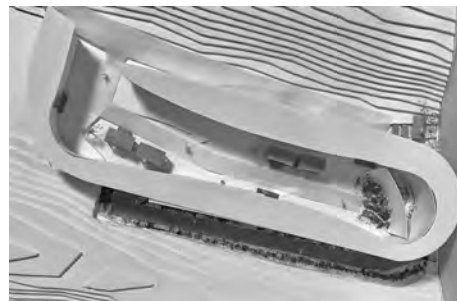
課題出題時学年:2年

出題教員名:藤原 徹平

指導教員名:藤原 徹平、針谷 将史、南 俊允

教員推薦
コメント

この作品は、山の中に2枚の壁、2枚のスラブを差し込むだけで住宅をつくろうという野心的なプロジェクトです。また2つの場所を行き来する森での移動生活全体を住宅と呼ぼうとしている発想も独創的で素晴らしい。〔藤原 徹平〕



52 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい —Activate Waseda—

神田川・山手線・早稲田通り・西武新宿線に囲まれた、人が立ち寄らない行き止まりの路地をひとつの建築で囲うことで、本来公共空間である路地が中庭のようなものとして使われる。そこには、この場所を訪れた人が創り出した都市的な空間と共生した住民の生活が生まれる。都市で暮らすことに不安を覚える地方出身の大学生を住まう対象とし、都市を観察して知ることができる住宅とする。



佐藤 日和 (さとう ひより) 早稲田大学

創造理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:有賀 隆、中谷 礼仁、矢口 哲也、小岩 正樹、藤井 由理、渡邊 大志、小林 恵吾、山村 健 指導教員名:有賀 隆、中谷 礼仁、矢口 哲也、小岩 正樹、藤井 由理、渡邊 大志、小林 恵吾、山村 健、阿部 俊彦、藤村 龍至

教員推薦
コメント

本課題は6年教育最初の設計課題である。作者は都市にてではなく都市と住むことを考えた。この図面からは、構造的な思考力とそれをプロポジションの良い線で象る力の潜在的な持ち主であることが窺える。2年生はそれで充分である。〔渡邊 大志〕

第19回 住宅課題賞2019 建築系大学住宅課題優秀作品展

主 催：一般社団法人 東京建築士会
企 画：東京建築士会 事業委員会
後 援：公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
協 賛：ファーバーカステル
特別協賛・作品集発行：株式会社 総合資格
協 力：公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]

企画・編集：鴛海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作：株式会社 ケシオン
発 行：一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階
[TEL] 03-3527-3100 (代) [FAX] 03-3527-3101 [E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp
[URL] <https://www.tokyokenchikushikai.or.jp>

© 一般社団法人 東京建築士会 2019

バスルームを自由にデザインする



東京バススタイルの オーダーデザイン ユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様の要望に応じてお造りしています

介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階 (建物右側の外階段より2階へお上がりください)

[営業時間] 10:30~18:00 [定休日] 日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net

合格実績

No.1
建築士試験

総合資格学院は 1級建築士試験も2級建築士試験も 「日本一」の合格実績!

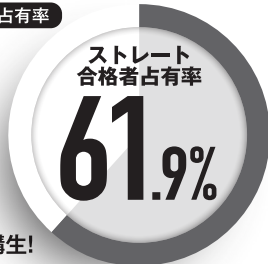
2018~2014年度 1級建築士学科・設計製図試験

全国 ストレート合格者占有率

全国ストレート合格者
合計8,080名中/
総合資格学院受講生
5,004名

直近5年間で
全国ストレート
合格者の6割以上は
総合資格学院の受講生!

(2018年12月20日現在)



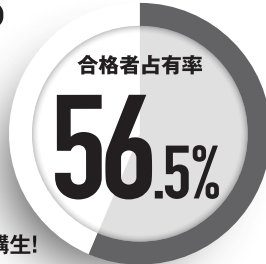
2018~2014年度 1級建築士設計製図試験

全国 合格者占有率

全国合格者
合計18,464名中/
総合資格学院受講生
10,427名

直近5年間で
全国合格者の
およそ6割は
総合資格学院の受講生!

(2018年12月20日現在)



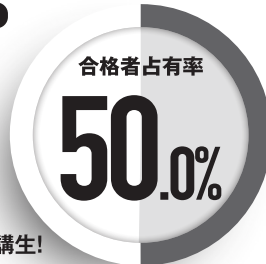
2019~2015年度 1級建築士学科試験

全国 合格者占有率

全国合格者
合計24,436名中/
総合資格学院受講生
12,228名

直近5年間で
全国合格者の
2人に1人以上は
総合資格学院の受講生!

(2019年9月10日現在)



2018年度 1級建築士設計製図試験 卒業学校別実績

総合資格学院
受講率

57.3%

卒業生合格者20名以上の学校
出身合格者のおよそ6割は総合
資格学院当年度受講生です。

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計
2,170名中、総合資格学院当年度受講生合計1,243名

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。
※総合資格学院の合格者数には、1級建築士(等)を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。
※上記合格者数および当学院受講率はすべて2018年12月20日に判明したものです。

学校名	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
日本大学	209	105	50.2%
東京理科大学	117	70	59.8%
芝浦工業大学	100	60	60.0%
早稲田大学	96	45	46.9%
近畿大学	77	43	55.8%
明治大学	75	49	65.3%
神戸大学	70	40	57.1%
千葉大学	66	43	65.2%
工学院大学	58	29	50.0%
東京都立大学	54	37	68.5%
大阪工業大学	50	32	64.0%
名城大学	49	32	65.3%
京都大学	47	20	42.6%

学校名	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
法政大学	46	30	65.2%
九州大学	45	27	60.0%
関西大学	42	20	47.6%
名古屋工業大学	39	26	66.7%
京都芸術繊維大学	38	28	73.7%
東海大学	38	27	71.1%
東北大学	37	13	35.1%
首都大学東京	36	23	63.9%
大阪市立大学	35	17	48.6%
横浜国立大学	34	19	55.9%
東京電機大学	34	18	52.9%
立命館大学	34	24	70.6%

学校名	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
金沢工業大学	33	19	57.6%
東京工業大学	33	16	48.5%
福岡大学	33	16	48.5%
神奈川大学	32	19	59.4%
熊本大学	31	18	58.1%
名古屋大学	31	21	67.7%
信州大学	30	15	50.0%
新潟大学	29	15	51.7%
前橋工科大学	29	21	72.4%
東京大学	29	9	31.0%
北海道大学	29	13	44.8%
広島大学	28	19	67.9%

学校名	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
中央工学校	27	16	59.3%
室蘭工業大学	26	9	34.6%
鹿児島大学	25	17	68.0%
摂南大学	24	17	70.8%
千葉工業大学	24	15	62.5%
大阪大学	23	13	56.5%
東北工業大学	23	14	60.9%
愛知工業大学	22	11	50.0%
慶應義塾大学	21	12	57.1%
広島工業大学	21	15	71.4%
大分大学	21	12	57.1%
三重大学	20	14	70.0%

2018年度 2級建築士設計製図試験

総合資格学院
当年度受講生
合格者数

2,179名

資格取得スクールとしてNo.1の合格実績を達成しました!

※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※全国合格者5,997名中、総合資格学院合格者2,179名・日建学院合格者2,137名・その他合格者1,681名 ※前記、合格実績および合格者の内訳は2018年12月1日現在のものです。
※出典: <http://www.ksknet.co.jp/nikken/index.aspx>

全国合格率54.9%に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率
8割出席・8割割題提出・模擬試験2ラウンドA達成
当年度受講生703名中/合格者612名

(2018年12月18日現在)

87.1%



※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
管工事施工管理技士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

賃貸不動産
経営管理士

総合資格学院

全国約90拠点

TVCM
公開中!

詳しくは学院HPへ

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL.03-3340-2810

スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

Facebook「総合資格 校」で検索!

総合資格 検索



【法定講習】監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習

- 01.茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム
- 02.宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
- 03.大妻女子大学 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻
- 04.神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース
- 05.関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース
- 06.共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース
- 07.慶應義塾大学 環境情報学部・総合政策学部
- 08.工学院大学 建築学部 建築学科
- 09.工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
- 10.工学院大学 建築学部 まちづくり学科
- 11.国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系
- 12.駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース
- 13.芝浦工業大学 建築学部 建築学科 AP コース
- 14.芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SA コース
- 15.芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UA コース
- 16.首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース
- 17.昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース
- 18.女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
- 19.多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース
- 20.千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース
- 21.千葉工業大学 創造工学部 建築学科
- 22.京波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
- 23.東海大学 工学部 建築学科
- 24.東京大学 工学部 建築学科
- 25.東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
- 26.東京藝術大学 美術学部 建築科
- 27.東京電機大学 未来科学部 建築学科
- 28.東京都市大学 工学部 建築学科
- 29.東京理科大学 工学部 建築学科
- 30.東京理科大学 理工学部 建築学科
- 31.東洋大学 理工学部 建築学科
- 32.東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科
- 33.日本大学 芸術学部 デザイン学科
- 34.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
- 35.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース
- 36.日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
- 37.日本大学 理工学部 建築学科
- 38.日本大学 理工学部 海洋建築工学科
- 39.日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース
- 40.日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース
- 41.日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻
- 42.文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科
- 43.法政大学 デザイン工学部 建築学科
- 44.前橋工科大学 工学部 建築学科
- 45.前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科
- 46.武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
- 47.武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
- 48.明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
- 49.明治大学 理工学部 建築学科
- 50.ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
- 51.横浜国立大学 都市科学部 建築学科
- 52.早稲田大学 創造理工学部 建築学科

住宅課題賞2019 建築系大学住宅課題 優秀作品展

開催日時

2019年11月20日(水) — 12月2日(月) 10:00~17:30
土・日・祝日休館(但し11月23日(土)は開館)

会場

ギャラリー エー クワッド
〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1
竹中工務店東京本店1F
<TEL>03-6660-6011
<URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4

